

令和 7 年度 県立友部東特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆こころとからだにやさしく寄り添う学校 ◆「夢や希望」に向かって自分らしく成長できる学校 ◆信頼とつながりを大切にする学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○コミュニティ・スクール初年度として、地域の資源を活用し、地域との関係づくりの土台を作ることができた。</p> <p>◇学校運営協議会への生徒の参加を検討する。</p> <p>○部単位でミニ研修を行い、キャンバや AI について学ぶことで授業に活用することができた。</p> <p>○ブログで学校の情報を発信することができた。</p> <p>○教師間でチャット等を活用して、各部の情報を常に共有し、問題の解決ができた。</p> <p>●ICT 活用に係る教職員の知識や技術の全体的な向上が課題である。</p>	<p>1 自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実</p>	<p>①基本的な生活習慣と豊かな心の育成 ②切れ目のない支援と系統的なキャリア教育の推進 ③進路選択を促す体験的な学習の充実及び個に応じた適切な進路指導 ④地域との交流や地域の教育力・資源等を活用した教育活動の展開 (コミュニティ・スクール)</p>	B
<p>○専門家派遣事業を利用した研修会、各部の研修を実施することができた。</p> <p>◇各部のニーズに応じた効果的で効率的な研修の在り方について検討する。</p> <p>●◇高等部の教育課程の課題や出席や評価についての内規の見直しを行う。</p>	<p>2 一人一人の個性や特性及び状態に応じた指導・支援の充実</p>	<p>①子どもの気持ちの理解と、学習空白に対応した適切な指導・支援 ②教育的ニーズに応じた柔軟な対応と分かる授業の実践 ③自立活動の指導内容を意識した教科指導の充実 ④各授業における ICT の有効的な活用</p>	B
<p>○勤務時間を意識した働き方が浸透してきている。</p> <p>●業務改善、業務の効率化については引き続き検討が必要である。</p>	<p>3 病弱教育の専門性の向上</p>	<p>①確かな専門性を踏まえた一人一人に寄り添う支援 ②校内研修等の充実による専門性の向上 ③医療・福祉等、関係機関との連携・協働を通じた支援の充実 (学校病院連絡会・復学支援会議・校内教育支援会議等)</p>	A
	<p>4 センター的機能の充実</p>	<p>①県内唯一の病弱特別支援学校として、組織的な支援を推進 ②教育相談及び入試相談の充実 ③病弱教育の積極的な発信 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画作成と活用の支援</p>	B
	<p>5 安全・安心な学校づくり</p>	<p>①心の居場所となる安心して学べる学校づくり (オンライン相談窓口の活用等) ②いじめの予防的取り組みと組織的対応の充実 ③感染症等対策の徹底 ④危機管理マニュアル等の評価・見直し・改善 ⑤職員のコンプライアンス意識の醸成</p>	A

	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	安全・安心な学校づくり 校内規定の見直し	日々の安全状況の確認（オンライン相談窓口の活用）いじめに関するアンケートの実施（年2回）子どもの人権支援会議での状況把握（月1回）各部、校務分掌部の校内規定の見直し・改善、その後共有ドライブにアップ	5－①② ③④	B	○日々の子供の様子を確認したり、会議で情報を共有したりすることでいじめの未然防止、早期発見等に努めた。 ○校内規定等の見直しに取り組んでいる。3月までに共有ドライブにアップできるように準備する。
教職員の 育成及び 指導・監督	職員のキャリアステージに応じたスキルアップ	自己申告書に係る面談等を活用して指導及び助言 既存の取り組みの常時確認・見直し・改善 新規採用研修及び中堅教諭等資質向上研修対象者には、講話等の実施。	3－①	B	○各病院での研修、他特支での体験等研修の機会を多く設定し研修に取り組んだ。 ○授業改善に取り組むことができた。
対外活動	コミュニティ・スクールを通して、地域資源を活用した教育活動の充実	地域の資源を活用した取組を各学部で1つ以上実施 ブログ等での情報の発信 市内の小中学校の計画訪問における授業参観	1－④ 4－③	A	○各部で地域資源を活用した行事を1つ以上実施した。 ○市内の小中学校の計画訪問に全職員が参加した。 ●子供の実態に応じた取組の行事の設定。
コンプライ アンス 確保	教職員のコンプライアンス意識の涵養	職員集会、クラスルーム、職員会議等でその都度、事例等を挙げながら注意喚起 コンプライアンス研修、面談の実施	5－⑤	B	○県からの事例に基づいて研修を行った。 ●職員の意識の維持、向上のために継続して取り組む必要がある。
働き方 改革	業務内容の見直し、仕事の効率化	連絡・報告におけるチャット機能の活用 ワークフローの導入 職員の業務を管理しながら勤務状況の確認し、把握	5－⑤	B	○ワークフローの研修を行い、ワークフローでの起案者、起案数が増えた。 ◇校務分掌業務内容を見直し。仕事の割り振りの均等化
I C T 活用	オンラインや情報機器を活用した授業の充実	オンライン学習、情報機器、アプリを活用した授業実践 情報機器の活用についての研修、係からの情報発信	1・2－ ① ②③④	B	○訪問学級、高等部でオンライン授業を行った。 ○係からクラスルームでアプリの活用、情報機器等の多くの情報発信を行った。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない